

MEMOTEKノス(南区大野台)は「音響」と「自動制御」をコア技術に据えたものづくりで、ニッチトップ戦略を実践する企業です。これらの分野で続々と自社製品を開発する一方で、現場の人手不足解消につながる省人化システム・ロボットなども提案、開発しています。自社製品のひとつである、タイマー付き定刻放送装置「ロボットアナウンサー smart (スマート)」は、今年度の「九都県市のきらりと光る産業技術」でも表彰され、各方面から注目を集めています。

■省人化や防災防止に貢献

音響と自動制御を専門とするエンジニアだった渡邊将文社長が2006年10月に設立しました。同社のビジネスモデルの特徴は、徹底したニッチトップ戦略です。具体的には、大手企業が撤退した分野にあえて参入し、そこでトップシェアを築くやり方です。大手企業は業績が悪くなると、採算が合わない事業・製品から手を引いてしまいます。ただ、その製品がないと困るユーザーが必ずいます。大手にとつては小さな成熟市場であつても、中小企業にとつては十分成長できる市場だったりします。同社はそこに着目しています。

現在、同社が製造販売するサーバーの空調監視装置や、監視カメラの連続映像を切り替えるアナログスイッチャーなどは、ニッチ製品ながらもトップシェアを誇ります。中でも代表的なのが、首都圏で高いシェアを占める、駅構内で使用する自動放送システムです。

一方で、人手不足など顧客の課題を解決する機械制御・ロボットシステムなどの受託開発も進めています。その際、得

意とする音響技術を、スパイスとして生かすことで他社にはないものづくりを実践しています。

■現場の安全を音声で守る

今回、表彰されたロボットアナウンサーも同社ならではの製品です。同製品は、温度や風速、水位など、外部のあらゆるセンサーとの連携が可能で、あらかじめ設定した数値を超えると現場で働く人たちに知らせ、次の行動を自動でアナウンスするというものです。

徹底したニッチトップ戦略で成長 「きらりと光る産業技術」にも選定

(株)MEMOTEKノス
代表取締役 **渡邊 将文**さん

例えば、同製品が採用されている屋外の建設現場では、一定の風速を超えると作業を中止することが法令で定められています。従来は風速計を確認し、人が作業中止をアナウンスしていました。しかし、人が介する限り、確認や放送漏れがあり、結果的に大事故になるリスクがあ

ります。その点、同製品を使うことでミスがなくなります。

このほか、利水関係の工事現場でも、警報水位に達したら同じく警報アナウンスが出るなどの用途でも使われています。「外国人労働者が増える中、今後はアナウンスの多言語対応にも取り組んでいきたいです」と、渡邊社長は意気込



でいます。

■既存技術を組み合わせ短期で開発

同社のもう一つの強みは、既存技術を組み合わせる手法を用いた開発スピードの速さです。新製品開発の場合、コストや時間がかかる新技術を組み込んで製品化するよりも、「今ある技術を組み合わせさせて効果を出すような構想を練り、実証・設計していきます」(渡邊社長)としています。実際、「コロナ禍で開発した空除菌装置は、着想からわずか3カ月で完成したそうです。

経営戦略から開発プロセスまで、どれも独自性がある同社。今後の動向に目が離せません。